

平成 25 年 1 月 15 日

## 【平成 24 年度第 2 回セミナーのご報告】

昨年 11 月 23 日（金）愛知県図書館において、「英語点字指導の現状～もう一度英語略字を問い直す」というテーマで今年度第 2 回セミナーを行ない、約 70 名の方のご参加がありました。当日は名古屋以外の地域からも多く参加していただき、英語点字学習への関心の高さを知ることができました。

前半は 4 人の講師の方から発表していただきました。まず愛知県立名古屋盲学校・溝上弥生先生から、支援学校における英語点字教育の現状についてお話があり、続いて日本福祉大学の学生・橋本育実さんから自身の学習体験談を、東京点字出版所・白井康晴さんからは特別支援学校用高校英語教科書の点訳の工夫点を製作者の立場から発表していただき、最後に、特別支援教育総合研究所・田中良広先生から現在の支援学校中学部用英語教科書の編集方針について報告をいただきました。

盲学校の英語点字指導では、まず略字の一覧表を生徒に配布し覚えることから始まります。そして、宿題などを提出した際に、しっかり習得できているかどうかを教員が確認し、間違っている箇所があればすぐにフィードバックして指導します。この「チェック機能」がインクルーシブ教育ではカバーできていない現状です。また、読む力は参考書・学習書などを通して独力で身につけることができますが、書く力はなかなか独力では上達しにくいということも補足されました。ケアレスミスの例として[received]の[ed]の略字の部分を[receiweed]としてしまう例や、[year]の[ar]を略すべきところを[ea]を略してしまうなど習得段階でのつまずきやすい点についても説明していただきました。

橋本さんは、小学校 6 年生ころから英語点字を学び初め、まずは略字カードを作りながら略字を覚えたという体験のお話でした。略字を覚えることに集中しすぎると、単語のスペルが分からなくなってしまうといった経験から、スペルと略字をセットで覚えることの重要性をお話しされました。

白井さんは、現在の高校英語点字教科書の製作について事例を交えながらお話しくださいました。現在、略字を使用している生徒とそうでない生徒がいる教育現場を考慮し、略字とフルスペルを併記した教科書を製作しているそうです。また、同社で製作されている英語略字単語カードも紹介され、参加者の関心を集めていました。これは、略字とスペルや記号類が点字と墨点字で併記されており、大きさも名刺サイズと非常にコンパクトなものでした。

田中先生からは、平成 24 年度に中学部教科書が改訂されたことに伴って、英語略字の導入段階が変わったことの説明がありました。これまでの 6 段階から 7 段階に変更され、導入順序も変わっています。詳しくは、URL をご覧ください。

また、田中先生の発表の中で、同研究所の土井幸輝先生と田中先生が現在試作している英語点字の略字・縮字の学習教材も紹介されました。英語点字の略字・縮字の点字パターンに加え、単語のフルスペルの発音を、音声ペンを活用して学ぶことができる教材です。セミナー参加者の皆さんにも僅かな時間ですがデモンストレーションをしてもらいました。今回紹介された教材は、本セミナーのテーマにも大いに関連するものでありました。

後半の情報交換の場では、現在の点字辞書の現状についても取り上げられ、30 年ほど前に発行された「新コンサイス英和辞典」（全 100 巻）や「新リトル英和辞典」（全 27 巻）など出版されている紙媒体の辞書が紹介されました。現在では、ランダムハウス英和やプログレッシブの英和・和英辞典などが点字データとして利用できる全視情協の点訳辞書推進委員会の辞書類や、英語・フランス語・イタリア語・スペイン語など 10 種類の点字辞書のデータまで入ったつつじフレンドの Windic など、点字データを点字ピンディスプレイを使って検索・利用できる電子媒体についても紹介されました。また、今後地域の学校で学ぶ生徒への英語点字指導をどのように行うべきか、略字に苦手意識を持たずに導入していく方法について議論されました。

今回のセミナーで英語点字指導の現状と問題点を考えるに当たり、今後の課題が少し見えてきたように思います。まずは、インクルーシブ教育を受けている子供たちがいかに英語点字を学ぶ場を整備していくかが急務と考えます。

英語学習が必須の中で、点字使用生徒が墨字使用の生徒にスピードで力が劣らないようにするには略字は必要不可欠なものです。英語点字略字を学習の場で定着させていくためには、今回だけに留まらず英語点字の習得や指導に関することを継続して当会で取り上げて行きたいと思います。

当日発表いただきました講師の方をはじめ、ご参加くださいました皆様、ありがとうございました。

## 【平成 24 年度第 3 回理事会記録】

日時：平成 24 年 11 月 23 日（金）10:40～12:00

場所：愛知県図書館・5 階中会議室

出席者：池村、加藤、込山、鈴、高橋（秀）、高橋（実）、田中、古谷、三上、奥野、松本

内容：

1. 当日の午後開催したセミナーに関する打ち合わせ・確認を行った。
2. 文科省との意見交換会について田中理事長より報告があった。

11月9日に今年度2回目の文部科学省教科書課との意見交換会が行われた。

・著作本中学部用教科書の製作体制について問題点を挙げ、編集委員会のあり方について提案した。

・文科省としては、インクルーシブ教育用点字教科書についてはすでに供給が行き届いているという認識である。

・特別支援教育課で、今後著作本のマニュアルを製作していく動きがある。

→文科省と合同で現在製作中のマニュアルを作れないか。

→著作本のことを主に取り上げようとする文科省と、インクルーシブ教育用教科書を目的にしている当会とでは趣旨が異なり、製作にずれが生じると思う。

拡大教科書の製作グループの動きとして、製作・供給体制について今一度検討されようとしている。点字教科書においても、実際はまだまだ行き届いていないことを問題提起するべきだ。そのために、まずは文科省に現在の個別の点字教科書製作状況（原典出版社名も含む）を提供してもらえるよう依頼する。また、専門教員に、インクルーシブ教育の教科書供給状況などの調査・現状の資料協力・助言をいただけないか相談する。

3. マニュアルの製作状況について

長岡理事の「総論」の部分は完成している。その他の科目の原稿については、引き続き原稿を依頼中。社会は執筆担当者を変更することになり、検討中。

4. 次回の理事会について

日時：3月2日（土） 13:00～17:00

場所：日本点字図書館会議室

発行日：平成25年1月15日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：田中徹二

連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：matsumotom@nittento.or.jp

振込口座番号：0180-7-262151